

磐田市全国学力・学習状況調査の結果公表について

I 目的

教育及び教育施策の成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力を得ながら、教育及び教育施策の改善に取り組む。

II 結果公表などの方法

1 磐田市教育委員会

(1) 市の結果公表

ア 公表内容

- ・市の国語 A・B、算数(数学)A・B の平均正答数、平均正答率、結果分析、学習状況調査の結果などを公表する。さらに、改善方策についても示す。
- ・学校別一覧の公表は行わない。

イ 公表方法

- ・学校の保護者などへは紙媒体で公表する。
- ・市民へは、ホームページで公表する。

ウ 公表の時期

- ・8月初旬に、国語 A・B、算数(数学)A・B の市の平均正答数及び平均正答率、結果分析を公表する。
- ・10月初旬までに、学習状況調査結果分析と学力向上に向けた改善策をリーフレットにまとめ公表する。

2 学校

(1) 該当学年児童生徒及びその保護者への結果(数値)伝達

ア 伝達内容

基本的に学校の平均正答数及び結果分析を該当児童生徒・保護者のみへ伝達をする。【別紙2参照】

イ 伝達方法

個人調査結果シート裏面に印刷するなど、学校の裁量で行う。

ウ 伝達時期

9月中旬までに伝達をする。

(2) 児童生徒・保護者などへの結果(文章)公表

ア 公表内容

昨年と同様に言葉による表現を用いて、結果や分析、学習状況調査結果分析、学力向上に向けた改善策を公表する。その際、成果を挙げている取組や児童生徒の強みなどの評価されるべき点も盛り込むこととする。

イ 公表方法

学校だよりなど学校の裁量で行う。

ウ 公表の時期

10月中旬までに公表をする。

(3) 学校運営協議会委員への伝達

ア 学校平均正答数等を伝達する場合は、口頭で伝えていく。

イ 学習状況調査結果分析と学力向上に向けた改善策については、学校の裁量で行う。

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

磐田市教育委員会

1 はじめに

平成30年4月に実施した「平成30年度全国学力・学習状況調査」の本市立学校の調査結果の概要をお知らせします。本市の調査結果及び課題等を公表することにより、児童生徒に関わる様々な立場の方々に関心をもっていただき、調査結果から見える成果や課題を共有しながら、学校・家庭・地域が連携し、一体となって磐田市の子どもたちを育てていきたいと考えております。

なお、本調査は、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部を測定したものであり、この調査結果を本市の子どもたちの学力や学習状況を把握する資料の一つとして、一人一人に応じた教育指導や学習状況の改善のために役立てていきたいと考えております。

※結果分析と今後の対策については、10月初旬にお知らせする予定です。

2 結果

〈小学校〉全国学力・学習状況調査平均正答率と平均正答数

	〔国語A：主として知識〕		〔国語B：主として活用〕		〔算数A：主として知識〕		〔算数B：主として活用〕		〔理科〕	
	平均正答率 (%)	平均正答数 (12問)	平均正答率 (%)	平均正答数 (8問)	平均正答率 (%)	平均正答数 (14問)	平均正答率 (%)	平均正答数 (10問)	平均正答数 (%)	平均正答数 (16問)
全国(公立)	70.7	8.5	54.7	4.4	63.5	8.9	51.5	5.1	60.3	9.6
県(公立)	69.0	8.3	56.0	4.4	63.0	8.8	51.0	5.1	60.0	9.6
磐田市	74.0	8.8	59.0	4.7	67.0	9.3	54.0	5.4	62.0	9.9

〈中学校〉全国学力・学習状況調査平均正答率と平均正答数

	〔国語A：主として知識〕		〔国語B：主として活用〕		〔数学A：主として知識〕		〔数学B：主として活用〕		〔理科〕	
	平均正答率 (%)	平均正答数 (32問)	平均正答率 (%)	平均正答数 (9問)	平均正答率 (%)	平均正答数 (36問)	平均正答数 (%)	平均正答数 (14問)	平均正答数 (%)	平均正答数 (27問)
全国(公立)	76.1	24.3	61.2	5.5	66.1	23.8	46.9	6.6	66.1	17.9
県(公立)	78.0	24.8	63.0	5.7	68.0	24.4	49.0	6.9	68.0	18.3
磐田市	77.0	24.7	63.0	5.6	67.0	24.3	48.0	6.7	68.0	18.2

3 結果概要 ○成果等 ●課題等

	小学校	中学校
国語	○文の中における主語と述語の関係などに注意して正しく書きなおしたり、話し手の意図を捉えながら聞き自分の意見と比べて考えをまとめたりする問題の正答率が高かった。考えを記述する問題がよくできていた。 ●文の中で漢字を正しく使う問題の正答率が低かった。日頃から漢字を用いて文を書くようにしていきたい。	○目的に応じて文の順序や構成を考えて書く問題の正答率が高かった。 ●文脈に即して漢字を正しく書いたり、語句を文脈の中で適切に使ったり、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読んだりする問題の正答率が低かった。基礎的な知識の定着を図る必要がある。活動の中で、言葉の用い方について確認していくことを大切にしたい。
算数 数学	○図形領域における正答率が高かった。特に空間の中にあるものの位置を表現する問題の正答率が高かった。 ●グラフから得られる情報をもとに適切に判断する問題の正答率が低かった。グラフの数値を正しく読み取るだけでなく、読み取ったことをもとに考えることができる力を育てたい。	○証明を振り返り証明した事柄をもとにして新たな性質を見いだしたり、与えられた情報から必要な情報を選択し適切な処理をしたりする問題の正答率が高かった。 ●数量や図形についての知識・理解に関する問題の正答率が低かった。基礎的な内容の定着を図りたい。
理科	○実験結果をもとに考察する問題の正答率が高かった。 ●基礎的な用語や概念についての問題の正答率が低かった。科学的な言葉や概念を定着させていきたい。	○実験の変更で起こる影響を考えたり、調べたい条件に合わせた実験を計画したり、科学的な思考をする問題の正答率が高かった。 ●観察や実験の技能についての問題の正答率が低かった。